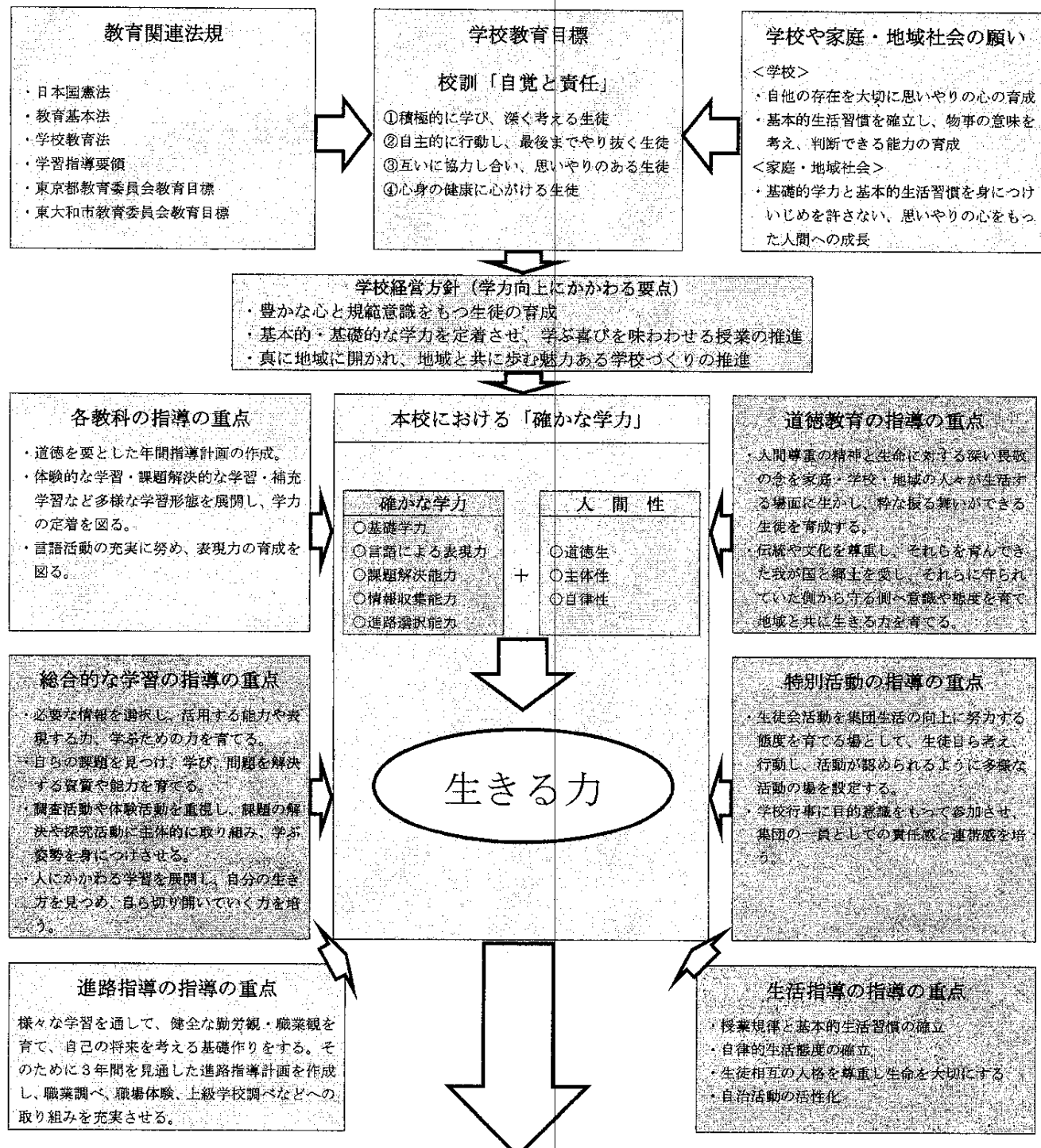


平成30年度 学力向上を図るための全体計画



本校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
・授業計画の再考 ・補習授業の充実 ・授業規律の確立と徹底	・授業時数の100%確保 ・学校の教育活動の積極的な公開。	・学期1回の授業研究実施 ・教科部会の充実 ・一中学区小学校との連携（一小、四小）	・教科部会を活性化し、連携強化を図る。 ・評価の分析結果を、指導に反映させる。 ・学校評価の結果を分析し、今後の指導の参考にする。	・基本的生活習慣の確立 ・家庭学習習慣の定着 ・地域ボランティア等との連携（放課後学習教室等）

3 様式
平成30年度

東大和市立第一中学校 国語科 授業改善推進プラン

全国学力・学習状況調査結果及び生徒の学力向上を図るための調査結果の分析

教科の内容分析	観点別の分析
第二学年の『児童・生徒の学力向上を図るための調査』によると、A教科の内容の正答率は本校が70.3%であり、東京都全体の73.0%にわずかに低い結果となった。またBの読み解く力に関する内容は本校が56.2%であり、東京都全体の59.3%に比べてこちらもわずかに低い結果となった。 第三学年の『全国学力・学習状況調査結果』によると、国語Aの平均正答率は本校が72.3%であり、全国平均と比較し、わずかに低い結果となった。また国語Bの平均正答率は62.8%であり、全国平均の全体の68.6%に比べてやや低い結果となった。特に国語Bは5%以上の開きがあるため、問題点を把握したうえで改善、そこ上げが必要とされる。	第二学年の『児童・生徒の学力向上を図るための調査』については、関心・意欲・態度については90%と高い数値が出ている。Aの内容では、読むは東京都平均を2%上回り、知識・理解、思考・判断・表現もその差は5%未満である。しかし、書くことについては東京都平均を13%下回る結果となり、課題が感じられる。Bについては、すべての観点において東京都平均より5%ほど低い結果となっており、今後の改善が求められる。

指導方法の課題分析と具体的な授業改善策及び補充指導等の計画

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画	評価・反省(2月)
1年	概ね教師の授業について来られているようです。改善すべきなのは、漢字をしっかりと書けるようにすることと語彙力の向上です。	漢字学習は、普段からよく字を書くことが必要です。また、多くの言葉を知り、それについて考えることが論理的思考を深めることにもつながります。「問い掛けの工夫」をすることで言語中枢を刺激するようにしていく。	夏休みに補講は行わなかったが、課題として出した漢字練習は良い刺激になった。冬休みに行えるのならば「文法」と「歴史的仮名遣い」に関して行いたい。	

2 年	得意とする生徒はやや持て余し気味になる一方、苦手とする生徒は授業についていくのに必死という印象を受ける。また、一斉指導ではクラスメイトが回答しているものを音声で聞き、自分もできたような気持ちになっているものの、実際のテストになるとわかっていなかった、と気づく生徒が多いように感じる。単元テストやできるだけ一人ひとりの作業を増やしたい。	書くことについての課題を克服するために、授業内でも積極的に書く作業を増やしていきたいと考えている。書くことについての躓きは二つ感じられ、一つは助詞の使い方間違いや語彙力の無さである。二つ目は最初からできないとあきらめて書かない、もしくは自信がなく書き進められない、ということがあるように思う。 一つ目についてはどこかで短作文コンクール等を開催すること、二つ目は授業内で自信をつけさせることを目標に、フィードバックを中心にやっていきたい。	個別に対応する機会を増やしていく。レベルに分けたプリント作りをすることや、放課後の補習等も増やし、底上げを図る。	
3 年	授業アンケートや課題の達成状況を見ると、得意とする生徒は比較的問題なく授業についてきており、挙手や建設的な発言も多い。その一方で基礎学力が十分とは言えない生徒は、授業態度こそ問題ないものの、内容面ではついていくのに苦労している感がある。 また、テスト勉強では暗記に頼っているとところがあり、発展問題に対応しきれていない。	理解が十分ではない生徒は基礎部分の底上げを粘り強く続けていきたい。漢字や熟語といった基本的学力を身に着けることを継続していく。やや苦手とする生徒に対しては、理解したことや、自分の意見などを文章にして、伝えられる技術をきちんと身に着けるようにする。問題提起に対してどのように答えるか、という具体的な回答の訓練や200字作文などの文章面でのサポートを行っていく。 小問題に実践的に取り組む。	個別に対応する機会を増やしていく。 小さな実践を積み重ね、自信と意欲を持たせる。 補習等少人数で対応する機会を作る	

3 様式

平成30年度

東大和市立第一中学校 社会科 授業改善推進プラン

全国学力・学習状況調査結果及び生徒の学力向上を図るための調査結果の分析

教科の内容分析	観点別の分析
地理的分野については、地図や統計資料を活用して、地域の特色を捉えさせる指導が必要である。歴史的分野については、大きな歴史の流れを理解させるとともに、主な出来事に着目して指導していく必要がある。公民的分野については、時代背景などと結び付けて考えさせる指導が必要である。	2学年「生徒の学力向上を図るための調査」における観点別評価では「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」のいずれも都の水準を下回っている。

指導方法の課題分析と具体的な授業改善策及び補充指導等の計画

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画	評価・反省(2月)
1年	生徒個々の、教科に対する興味・関心や発達の違いがある中で、いかに効率よく授業の効果を上げていくかが課題と考える。	視聴覚教材を活用するなど、興味・関心が高まる授業づくりを進めていく。基礎・基本の定着を図るため繰り返し学習を行う。授業規律の確立に努める。	基礎的・基本的な知識の定着を図るために、単元ごとにプリントや副教材を活用した繰り返し学習を継続的に実施する。	
2年	教科に対する「関心・意欲・態度」にバラつきがみられる。そのため、学力にも個人差の開きが見られる。また、家庭学習の時間の確保、学習方法にも課題があると考え。	復習プリントの準備、視聴覚教材を利用した資料提示や動画の活用、少人数による話し合い活動を授業の中に取り入れていく。	自主学習を進める意識を持たせるために、授業ノートと復習プリントの活用を進めていく。また、プリント学習を通じて、基礎・基本の定着を図る。	
3年	ノートをとる習慣はついてきている。その一方で、板書をノートに書くだけで、話を聞く集中力に課題が見られる。復習する習慣がなく、学習内容が定着しない面がある。また、図やグラフなどの資料から変化や問題点を読み取り、表現する能力が低い。	資料集の活用や、図やグラフなどの資料から読み取る演習問題に取り組み、資料を活用する技能、思考・判断・表現力の向上を図る。定期考査の出題方法を工夫し、暗記だけの学習にならないようにする。復習プリントなどを活用して知識の定着を図る。	基礎的・基本的な知識の定着を図るために、単元ごとのワークを利用した振り返り学習、復習プリントによる繰り返し学習を継続的に実施し、家庭学習の習慣化につなげる。「税の作文」などを通して、発展的な学習につなげていく。	

3 様式
平成30年度

東大和市立第一中学校 数学科 授業改善推進プラン

全国学力・学習状況調査結果及び生徒の学力向上を図るための調査結果の分析

教科の内容分析	観点別の分析
第2学年の「児童・生徒の学力向上を図るための調査結果」において教科内容の正答率は53.4%と東京都の平均に4.9ポイント及ばなかった。「関心・意欲・態度」は、91.9%と都平均より2.7ポイント上回ったが、他の観点では都の平均にとどかなかった。特に「知識・理解」については、12.7ポイント差と厳しい結果となった。	第2学年の「児童・生徒の学力向上を図るための調査結果」において読み解く力の正答率は47.2%と都の平均に5.1%及ばなかった。特に、「読み取る力」については、31.6%と、都の平均と比較して9.4%都の平均より低く、昨年度に続き厳しい結果となった。

指導方法の課題分析と具体的な授業改善策及び補充指導等の計画

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画	評価・反省(2月)
1年	数学用語を問題解決の過程で使うことが、とても苦手な生徒が多い。 問題を解くことはできるがそれを記述したり、説明することに苦手意識がある生徒が多い。 家庭学習等での基礎事項の繰り返しが不足している。授業時では解けている問題が、時間が経過すると解法を忘れ解けなくなってしまいう生徒が多い。	数学用語等の定期考査での出題や、授業で繰り返し質問を投げかけることにより定着をはかる。 授業では式を書いて解くことを徹底し、生徒が解いた問題を解説しながらよいところをほめ、式の重要性を示していく。 演習問題を多めに準備し時間を多く割く。また、ワークシートによる演習を多く取り入れ、家庭学習の材料とする。	ワークシートの活用、点検。 問題集や授業用ノートの定期的な点検。 長期休業明けの課題テストの実施や、定期考査前の質問教室の実施。 夏季休業中の学習会や、放課後学習教室の実施。	
2年	授業では、できている内容が定期考査時には忘れてしまっていてできない、という生徒が多く見られる。家庭での学習不足が原因の一つであると考え。	習熟度別の授業により、標準クラスでは反復問題を多く取り入れ、また発展クラスでは様々なレベルの問題を取り入れ、それぞれのレベルの生徒の能力向上を図っている。	・小テストの定期的な実施。 ・夏期休業中の補習教室(4日間)や、プリントによる基礎問題、発展問題への取り組み。 ・問題集の定期的な点検。	

3 年	進度について、『速い』という意見と『遅い』が見られた。適切な習熟度別授業の選択、机間巡視による個別指導などにより、生徒のフォローをおこなっていききたい。 入試へ対応するため、プリントによる問題演習を多く取り入れ、計算能力を養っていく。	少人数習熟度別授業の実施。 定期考査において、証明や式による説明等の記述式問題を多数出題し、証明や途中計算を書く力の伸張を図る。	問題集の定期的な回収（学期3～4回）を行う。 プリントによる問題演習を定期的に行う。 授業用ノートの点検。 夏季休業中の学習教室（5回程度）。	
--------	---	--	---	--

3 様式
平成30年度

東大和市立第一中学校 理科 授業改善推進プラン

全国学力・学習状況調査結果及び生徒の学力向上を図るための調査結果の分析

教科の内容分析	観点別の分析
理科の授業を楽しく受けている生徒も多いが、基礎学力が不足している生徒が多い。学力向上テストでは教科の内容ではほぼ平均であった。また、「楽しい」と感じている生徒ほど正答率が高いという結果が出ているため、学習に対する意欲・関心を高めていく授業が求められる。小数の扱い、グラフや表を読み取る力が不足している。意見を発言する姿勢も個人差がある。	「知識」に関する問題は都平均よりも1%高く、「活用」は1%低い結果であった。評価の観点では、観察・実験の技能だけが都平均より5.3%高かった。実際様子は関心・意欲・態度は良好だが、まだ思考・判断や記述式の観点は課題がみられる。理科への興味や関心はあるものの、事物や現象に対して考えをもち、それを読み取り、科学的に表現することを苦手としている生徒が多い。

指導方法の課題分析と具体的な授業改善策及び補充指導等の計画

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画	評価・反省(2月)
1年	意欲的な生徒が多く、積極的に発言しているが、発言者に偏りがある。また、苦手意識を持っている生徒もいる。応用力、表現力が弱い。	授業の始めに復習を設け、基礎的な科学用語の定着をはかり、実験、観察の経験を増やす必要がある。 自分の答えを発表し、仲間と相談できる雰囲気を作っていく。	小テスト等で知識を培っていく。 少人数の活動で、話し合いの場を増やしていく。	
2年	やや積極的に発言できる生徒もいるが、少数である。 実験観察は意欲的だが、知識と結びつけるのが苦手なため、応用力や書く力が弱い。個人差が大きい。	積極的に自信をもって発言できる発問を増やす。(前回の復習時)自分の考えを発表し、まとめられるように声かけ、機会を増やしていく。	授業プリント、小テスト等で知識を増やしていく。 班での活動を増やし、少人数の中で話し合い、自分の考えを発表できるようにする。	
3年	学習意欲については、積極的に発言をする生徒が多く見られる。実験では積極的に動く生徒が多く見られるが、受け身になってしまっている生徒もいる。	実験では毎回、結果を予想させ、さらに根拠も書かせることで、自分の言葉で説明する力を付けていく。 実験時に班で話し合う機会を増やし、言語活動の充実を図る。 定期考査では説明したり、自分の考えを書いたりする問題を出題し、表現する力のレベルアップを図る。	ワークシートの活用を工夫する。 単元の導入で興味を持てる身近な資料や話題を提示する。 実験観察の授業や演示実験を工夫する。	

3 様式
平成30年度

東大和市立第一中学校 音楽科 授業改善推進プラン

指導方法の課題分析と具体的な授業改善策及び補充指導等の計画

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画	評価・反省(2月)
1年	小学校の学習内容が不十分であるため小学校で習うべきことの復習が必要。音楽活動の楽しさを体験させるために、表現に必要な基礎的な技能、知識を身につけさせることが課題。	小学校の復習 デモンストレーションを見せながらの授業展開。 具体的な表現方法を指示。 視聴覚機器、教材を充実させる。ワークシートに沿った鑑賞活動。	グループワークを取り入れる。 和楽器実習を取り入れる。	
2年	音楽活動の中で、表現に必要な基礎的な技能、知識を活用する力を身につけさせることが課題。人間関係を構築しながらのグループ学習の必要性。	デモンストレーションを見せながらの授業展開。 具体的な表現方法を指示。 グループ学習の具体的手順の提示 視聴覚機器、教材を充実させる。 ワークシートに沿った鑑賞活動。	グループワークを取り入れる。 和楽器実習を取り入れる。 楽曲に取り組む際に基礎知識の確認をし、さらに定着を図る。	
3年	音楽活動を通して、表現に必要な基礎的な技能、知識を理解し工夫して表現する力を身につけさせることが課題。主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする姿勢を身につけさせたい。	デモンストレーションを見せながらの授業展開。 具体的な表現方法を指示。 視聴覚機器、教材を充実させる。ワークシートに沿った鑑賞活動。	興味・関心を高めるために、多様な音楽を導入する。 読譜などの力をつけ、生涯にわたって、音楽を楽しめる基礎を作る。 身近な道具を用いたリズム活動の実践。	

3 様式

平成30年度

東大和市立第一中学校 美術科 授業改善推進プラン

指導方法の課題分析と具体的な授業改善策及び補充指導等の計画

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画	評価・反省(2月)
1年	自由な発想を育成の工夫 点・線・面を利用した平面構成を行った。 色彩基礎・絵の具の表現・独自の色を作り表現力を向上 三原色と白・黒の混色や重色・水の調整で透明・不透明・かすれの表現の幅を広めさせた。アクセントカラーや画面の引き締めや色のバランスを客観的に見て作品を仕上げることで、作品が変化していく過程を確認させた。 鑑賞体験から鑑賞力を養う。 自分の作品を、制作中に繰り返し客観的に見る。作品制作が進んできた段階から、導入時に、黒板に全員の作品、進度の進んでいるクラスのもの貼り表現の多様性や様々な工夫を観ることで、制作のアイデア及び自作品の改善点を探らせた。 観察・集中・描写力を養う。 5分間の友人のクロッキー。全身をとらえ、バランスや動き、人体の特性を観察する大切さを学ばせた。 課題：集中力のない落ち着かない生徒、描けない生徒に対して、個別指導・補習で見方や形のとらえ方を伝える必要がある。 鑑賞の楽しみを味あわせる。 生涯に渡り作品を愛好する心を養うことにつなげる。 原始から印象派など、生徒が、知っている作品を切り口に時代により制作目的があり、それに応じて生まれた多様な表現、後世に名を残した画家の絵について様々な角度から絵をみた。夏休み自分の興味のある美術館に足を運び作品とふれ授業の鑑賞を深めるように工夫した。 課題：生涯に通じ美術を愛好する気持ちの育成を目指したい。授業での学習と学校行事を連動させ長期休暇を利用し美術館・文化財を訪れる機会を増やすし豊かな感性を育みたい。	技術的に丁寧に仕上げる段階の課題を、現在は2年次の模写で取り組ませているがデザイン分野の小作品5cm大のサイズで、2時間程度で完成させられる作品に入れるサインのデザインを考えさせレタリングの導入を検討する。 教材の改善工夫策 表現する紙面の大きさや形もデザインさせる。異なる紙質をもと紙の一部に重ねて貼る。2つの幾何学形態の重なりや、質の違う紙、さらにクレヨンや水彩絵の具・アクリル絵の具の併用で、形や色彩・質の違い感じて制作させると、発想・表現に広がりが見られる。 クロッキー、人物を描くマナーを学ぶ。 観察力を培う。アニメや漫画のような表現から人物をとらえて描くことで、描かれる人物表現が変わってくることを気付かせるために、6月までは、自己評価と気付いたことを文章で書かせたが、教師のコメントや評価を授業毎に行えることが理想。時間の確保が課題。 鑑賞 作品提示の仕方を、今年度は美術資料集とプリントで行ったが、パワーポイントで、作品を見ながら、時代や場所のイメージを膨らませる、見て感じたことを生徒から吸い上げるゆとりが確保できるよう授業計画や組み立てを再検討し、対話型鑑賞の時間を設ける。夏休みの美術館の作品鑑賞後の新聞紙面の効果的な構成方法の指導・新聞の内容を1分間で発表など自分の感動や思ったことを様々な方法で伝える力を養う工夫をする。	発展課題：表現の向上・作品のプロモーションのための額装の意義を伝える 展示会に展示させるために、額装する色画用紙の組み合わせを考えさせて、絵を引き立てる工夫をさせることで、額装の意味や重要性を気付かせたい。 クロッキーからデッサン 多様な表現の経験 2学期以降鉛筆からボールペン・木炭・墨汁など材質を変え、様々な表現を体験させることで、自分の好きな画材や表現について考えさせていきたい。 2学期、描きこみ・ガラス瓶を描くことに挑戦させたい。深く見つめる描きこむ力をつけたい。 鑑賞 西洋美術史の大まかな流れ、時代や国などにより表現が異なることを理解させるために、1から3学年まで見通し、定期テストでくり返ししながら、徐々に範囲や内容を深めていく。	

2 年	集中力・観察力・描写力の育成 毎時間、授業の初めに5分間、クロッキー実施した。1学期の目標、集中力・観察力・全身の動きやバランス、人体のつながりを意識させた。頭からひと筆で服の皺を描くことから、肉体の存在・人体構造のポイントを伝え描かせた。立ポーズから始め、描く向きを前後左右、モデルを毎回変え、多様な体系が存在と、骨格やバランスなど共通する構造的な特徴に気付かせるようにした。後半は、すわりポーズや寝ポーズを、数人のモデルから選び、各自の描きたい気持ちを尊重した。 課題：アニメとリアリティーのある表現との違いを描く回を重ねる中で、自分自身の表現の変化を感じ取らせることができるので、見る重要性や描く楽しさを味あわせることができるので、年間、継続して行う。また学期途中で、1時間を利用し、多様なモデルを繰り返し描くことで、見ること描くリズムや調子を身に付けさせたい。 模写：表現方法・技法・描き方・その作品に込められた思いを自分が表現することで、感じとる。 課題：下塗りまでなので、2学期以降、画家独自の表現や色彩を感じ取らせ、じっくり仕上げていきたい。 鑑賞：1年と同じ 鑑賞範囲はより広く、原始からモダンアートまで広範囲に西洋美術史の流れをとらえた。美術資料集及びプリント。 課題：生涯に通じ美術を愛好する気持ちの育成を目指したい。授業での学習と学校行事を連動させ長期休暇を利用し美術館・文化財を訪れる機会を増やすし豊かな感性を育みたい。	クロッキー 観察力を培う。アニメや漫画のような表現から人物をとらえて描くことで、描かれる人物表現が変わってくることを気付かせるために、6月までは、自己評価と気付いたことを文章で書かせたが、教師のコメントや評価を授業毎に行えることが理想である。表現の材質を変え、自分に合った表現方法、心地よい・面白いと思える表現と出会えるように、ボールペン・鉛筆・割りばしペンなどを使う。 模写： 時間を区切り、全体の仕上げまでの見通しをもって授業に取り組ませる。 絵を近くから遠くから見せて、仕上りの状況や卒表現など客観的に見て表現技術力を養う。 鑑賞 作品提示の仕方を、今年度は美術資料集とプリントで行ったが、パワーポイントで、作品を見ながら、時代や場所のイメージを膨らませる、見て感じたことを生徒から吸い上げるゆとりが確保できるよう授業計画や組み立てを再検討し、対話型鑑賞の時間を設ける。夏休みの美術館の作品鑑賞後の新聞紙面の効果的な構成方法の指導・新聞の内容を1分間で発表など自分の感動や思ったことを様々な方法で伝える力を養う工夫をする。	クロッキー 1人ポーズの時間短縮。5分から3分、1分へと短縮し、不要な線を省き、全体のバランスや印象を重視して描かせる。 動きのあるポーズを描けるようになってきたので、2学期後半から、2人のモデルを1つの画面に入れ、2人の距離感や異なる人物の大きさなどを測り、画面に入れる構成員を養う。 2人ポーズが、難しい生徒には無理をさせず、各自の特性や良さを生かした表現を深めさせたい。 模写を通じて深めた表現や技術を、自由課題の絵画作品で生かせるようにする。 また、模写の全く異なる画家の表現に取り組ませることで、多様な表現を経験的に学ばせる。	
--------	--	--	---	--

3 年	西洋美術史の鑑賞 3年の修学旅行の仏像や建造物に影響を与えたギリシャ・ガンダーラ美術・イタリアのルネサンスのモナリザなど、東洋と西洋のつながりを理解させることを目的に授業を行った。場所〈世界地図〉時代背景・表現の対象・作品の特徴などパワーポイントで、現地の様子・作品の全体・細部を映像とプリントを使い美術資料集をベースに授業を行った。 課題： 1・2年次に、美術史や芸術作品の鑑賞授業がなく、知識を学ぶことへの抵抗感があった。復習や小テストなど繰り返した行ったが、理解が難しい生徒もいた。 抽象表現を描くことで、何が描かれているのか感覚的につかむ。 ピカソの「ゲルニカ」は、知識として学ぶ、キュビズムという言葉の意味や技法を理解できても、この表現に至った理由や、絵に何が描かれているのか、実際に描くことで、ピカソの色・形・線の表現が、様々な物の存在感や感情を的確にまた、気持ちに訴える強さがあることに気付かされる。 白・黒・灰色の色を、鉛筆の種類を変え、クロスハッチングやぼかし、消しゴムで調子を整えるなど多様な表現を生徒一人一人が考え出した。 また、非常に集中し、丁寧に大変な表現に取り組むことができた。 この授業目的は表現を自分で考えること。描きながら、1つ1つのモチーフや情景や状況に想像を巡らせることで、鑑賞する力を養うことにあ	鑑賞：より興味が持てるように、授業の進め方とプリントの記述方法や箇所を再検討する。 実技課題： 模写の枠取りや倍率を等倍で行うことで、下準備の時間を短くしたが、それでも、全員が下書きの線を書き終わるのに2時間を要した。 原画の部分模写にする。 枠を自分で作る工程や、方法はカットするべきではないと考えるものをつくる、下準備や段取りのプロセスは、日々の生活で便利になり、自分で準備することを厭う生徒や、少しでも工程が見えないと何もできない生徒も多く、準備してやり方を考える校庭や工夫は大事にしていきたい。	修学旅行での現地での鑑賞：修学旅行での仏像や建造物の見学前に、シルクロードを通じ、西洋から東洋に伝わった表現や技術についての鑑賞授業を行い、現地での見学を有意義なものにしたい。鑑賞メモや見どころについて準備を行う。鑑賞した内容を主学旅行後に、まとめ伝えられるようにする。 発展的な表現 油絵の作品「ゲルニカ」を鉛筆の濃淡で表現した。さらに、スクラッチのクロスハッチング、ニードルで削ったり、紙やすりでこするなど、濃淡の多様な表現方法を体験させた上で、アクリル絵の具で着彩、深みのある色や、ガラスの透明感による効果など、表現の広がりや面白さを体験させる。	
----------------	---	---	--	--

3 様式

平成30年度

東大和市立第一中学校 保健体育科 授業改善推進プラン

指導方法の課題分析と具体的な授業改善策及び補充指導等の計画

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画	評価・反省(2月)
1年	自己の課題を見つけることができない。	自己の課題を見付ける事ができる学習カードを活用する。学習の中で生徒同士がコミュニケーションをしっかりと取り意欲的に活動できるようにさせる。	スモールステップによる基礎的基本的な技能の習得を目指し、教員が個に応じたアドバイスを行えるようにする。	
2年	しかし、一年次に比べ、自己の課題に積極的に取り組める。生徒間の教え合いも行える環境作りが課題である。	学習カードを活用し、自己の反省や課題を明確にできるようにする。 自己の課題解決のための手立てを生徒間の話し合いの中で見付けられるようにする。	個人で課題が異なるため、目標設定をしっかりとさせる。同じ課題を持つ生徒同士で教えあう時間やできる生徒が苦手な生徒へ教えるなどの練習時間を設定する。	
3年	自己の課題を意識し、より技能の向上を目指して取り組むことが課題になる。	学習カードの活用は習慣化しているため、自己分析をしっかりと行わせ、毎時の取り組みの中で自己の技能向上を意識して授業に取り組ませる。また、課題解決のため練習法を考えられるようにする。	生徒間の教え合いを大切にするとともに、個々の課題にあった的確なアドバイスができるようにする。集团的技能においてはより集団で行う楽しさを味合わせる。	

平成30年度 東大和市立第一中学校 技術・家庭科 授業改善推進プラン

指導方法の課題分析と具体的な授業改善策及び補充指導等の計画

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充・発展 指導計画	評価・反省 (2月)
1 年	(技術) 中学校生活に希望をもち、意欲的に授業に取り組んでいますが、授業で学んだことを家庭で実践しようという意識や機会が少ないようです。 実習や実技には、多くの生徒がいきいきと取り組めますが、一部に意欲や根気のない生徒も見受けられます。また、自ら努力、苦勞して作り上げた作品に対する愛着や思い入れ、作品を大切にしている気持ちを感じない生徒もいます。 (家庭) 年々、子どもたちの実生活での体験が少なくなっていく中で、生活に必要な基礎的な知識と技術の習得を通して、生活と技術の関わりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てること、実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な衣食住に関する基礎的な知識と技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てることを目標とする。 作品の製作や衣食住の学習活動への生徒の興味・関心を生かした授業の展開を進めている。 限られた時数の中で、実践的・体験的な学習活動を充実させる授業の展開を進めている。	(技術) 1時間の授業の目標を明確に伝え、最重要ポイントを的確に理解させます。また、前時の振り返りをさせ、本時の改善点を的確にさせます。 実習では、作品づくりの目標を明確に理解させ、作品の利用価値を考え自ら製作を工夫し目標に近づけることで、生活の中で利用度の高い価値のある製品としての自分の作品に結びつけるように重点的に指導します。 道具や工具の補充、配置に生徒の教室内での動きを検証し、安全で使いやすい環境づくりを工夫します。 道具の扱い方や片付け方法等、小学校と連携した指導をします。 作品完成後、作品鑑賞評価の時間を設定し、お互いの感想やまとめを行い発表評価することで 言語活動の充実を図ります。 (家庭) ものづくりやその活用の学習などを通して、作品を製作する楽しさやつくり上げる喜びを感じ、愛着をもてる作品づくりができるようにする。実践的・体験的な学習活動、教え合いや学び合いを活かす班活動、個性や感性を活かし工夫できる材料の利用を心がける。 授業時数が少ない中でも、課題を出して、生活に関わる作業(「食生活」は、包丁やピーラーの練習)を可能な限り体験させ、レポートを事前に提出させ、包丁に慣れさせ、当日の安全をはかっている。「住生活」は、身の回りの掃除や整理) 説明や黒板中心の授業でなく、プリントやワークも含めた作業に取り組む時間を設ける。 調理実習は安全に作業し、学び合いを大切にしている集団、班の編成を心がける。 作品は、四年前のものより1手順少ないものにし、実習時間を確保した。 夏休みに、アンケートに答え、10の「食生活の課題」から自分の課題を選び、改善のために具体的な工夫を考え、実習の実践等をレポートする。	(技術) 授業中の助言 (家庭) 授業中の助言 ワークシートやノートの活用 ミシンの実習は、必要に応じて放課後の補習を実施 欠席の生徒は、個別対応 ポケットの数や形・コンピュータミシンの刺繍などの個性あるデザインも個別対応 標本や資料での補い	
2 年	(技術) 製作に取り組もうとする意欲は高いのですが、自ら進んで製作方法や手順を工夫して製作しようとするのが不得手です。授業に落ち着いて取り組んでいますが、教科書等の忘れ物が多少ありました。 基本的な知識や工具の取り扱いを理解しています。 定期テストでは意欲的に学習に取り組む生徒と 学習意欲の低い生徒との理解度の差が大きく表れました。 週1時間の製作実習時間内に計画的に作業を進め完成させることができず、放課後の補習を利用して進める必要がありました。 (家庭) 年々、子どもたちの実生活での体験が少なくなっていく中で、生活に必要な基礎的な知識と技術の習得を通し、生活と技術の関わりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てること、実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な衣食住に関する基礎的な知識と技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てることを目標とする。	(技術) ワークシート等を利用した授業の振り返りをさせ、次の授業の取り組みに活用します。 忘れ物のチェックを厳密にし、学習意欲の低下に対処します。 実習や作品づくりの目標を明確に理解させるとともに、作品の利用価値を考え、自ら製作を工夫し目標に近づけることで、生活の中で利用価値が高い製品となるように重点的に指導します。 道具や工具の補充、配置に生徒の教室内での動きを検証し、安全で使いやすい環境づくりを工夫します。 作品完成後、作品鑑賞評価の時間を設定し、お互いの感想やまとめを行い発表評価することで 言語活動の充実を図ります。 (家庭) ものづくりやその活用の学習などを通して、作品を製作する楽しさやつくり上げる喜びを感じ、愛着をもてる作品づくりができるようにする。実践的・体験的な学習活動、教え合いや学び合いを活かす班活動、個性や感性を活かし工夫できる材料の利用を心がける。 授業時数が少ない中でも、課題を出して、生活に関わる作業の実習(「衣生活」ならば、洗濯やアイロン・ボタンつけ・スナップつけ・ほころび直しなどの手入れ)を可能な限り体験させる。レポートにまとめさせ、提出させる。 説明や黒板中心の授業でなく、プリントやワークも含めた作業に取り組む時間を設ける。 調理実習は安全に作業し、学び合いを大切にしている学習集団、班の編成を心がける。	(技術) 授業中の助言 (家庭) 授業中の助言 ワークシートやノートの活用 標本や資料での補い 板書カードの活用	

	作品の製作や衣食住の学習活動への生徒の興味・関心を生かした授業の展開を進める。 限られた時数の中で、実践的・体験的な学習活動を充実させる授業の展開を進めている。	作品は、クラスの人数の関係から被服室が使えず、三年前より「布の絵本」から「スポンジキューブパズル」にした。デザインは、オリジナルを取り入れるように指導した。製作は、生徒の感性や工夫が表現できるように、また、製作への関心や意欲が高まるようにフェルト以外の材料も準備した。		
3年	(技術) 多くの生徒が授業に落ち着いて取り組み、実習や実技では意欲的に取り組みますが、一部に意欲や根気のない生徒も見受けられます。 自ら努力や苦勞して作り上げ完成させた作品に対する愛着や思い入れ、作品を大切にする気持ちを感じない生徒がいます。 (家庭) 年々、子どもたちの実生活での体験が少なくなっていく中で、生活に必要な基礎的な知識と技術の習得を通して、生活と技術との関わりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てること、実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な衣食住に関する基礎的な知識と技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てることを目標とする。 限られた時数の中で、実践的・体験的な学習活動を充実させる授業の展開を進めている。 「調べ学習」という形で、消費生活や幼児・家族や地域に関する課題を見つけて、学習を深める。	(技術) 1時間の授業の目標を明確に伝え、重要なポイントを的確に理解させ、課題に対する到達度を細かく分けて取り組ませる。 課題を返却する際に、評価・助言を添え、改善すべき点を明確にする。 忘れ物を無くするためのチェックを厳密にし、学習意欲、学習内容理解の低下に対処します。 実習や作品づくりの目標を明確にし、自ら製作を工夫し目標に近づけることで、生活の中で利用度の高い価値のある製品につなげると同時にかけがえの無いたった一つの作品に結びつけるように重点的に指導します。 道具や工具の補充、配置に生徒の教室内での動きを検証し、安全で使いやすい環境づくりを工夫します。 作品完成後、作品鑑賞評価の時間を設定し、お互いの感想やまとめを行い発表評価することで言語活動の充実を図ります。 (家庭) 週0.5時間の授業の工夫(講義、調理実習等)説明や黒板中心の授業でなく、プリントやワークも含めた作業に取り組む時間を設ける。 1時間の中で、導入、教科書で知る、発言、説明、考える、ワークで確認など、授業の流れを分けて進め、めりはりをつける。 調理実習は安全に作業し、協力し、学び合いを大切にする学習集団、班の編成を心がける。 調理実習の板書を、プリントと同じ作り方やポイントだけでなく、実習で学べることも加え、目標を持たせ、深める。	(技術) 授業中の助言 (家庭) 授業中の助言 ワークシートやノートの活用 プリントで資料を補う 標本や資料での補い	

3 様式
平成30年度

東大和市立第一中学校 英語科 授業改善推進プラン

指導方法の課題分析と具体的な授業改善策及び補充指導等の計画

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画	評価・反省(2月)
1年	意欲的に授業に取り組み、積極的に発言する生徒が多い。しかし、家庭学習で復習に充てる時間が少ない生徒が多く、学習内容の定着に個人差がある。	授業では既習事項の確認をするための活動を増やしていく。週一回単語テストを継続して実施する。音読や単語、基本文の練習など家庭学習での復習を促す。	夏季休業中に5日間の学習教室を行った。音読カード、単語テストなどで目標に向けて取り組み、定着につなげる。	
2年	積極的に授業に取り組む生徒もいるが、意欲に欠ける生徒も見られる。音読やペア活動、単語テストへのとりくみなど、課題に向かってきちんと取り組む生徒とそうでない生徒の差がかなり出てきた。	興味を持たせるような、飽きさせない授業展開を考える。音読やペア活動は単調にならないような工夫をする。単語テストやドリルを使って、既習事項の復習を行い、理解を高めていく。	夏季休業中に4日間の学習教室を行った。基本文やQ&Aのシートを使った反復練習で知識の定着を図る。スピーチ、ゲーム、歌などを行い、興味を持って取り組ませる、	
3年	真面目に授業に取り組み、学習意欲が高い生徒が見られるが、クラス内で生徒同士の英語力に格差がかなりある。学習意欲が低く集中できない生徒や、授業に全く取り組まない生徒も少しいる。	授業では簡単で分かりやすい文を使い、板書とリスニングで文法とその意味を理解させる。スピーキング活動をペアワークで行い、英語の語彙や表現を定着させる。	週に1回、入試によく出る熟語や会話表現、単語の変化や文法事項の復習テストを行い、知識の定着を図る。英作文問題、リスニング問題、都立入試疑似問題に取り組む。	